

附屬書類添附

管區書

第一課

第五

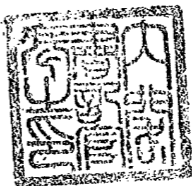
總込名

普通
受第 13 / 第
11. 8. 18

内閣雜乙第ニ三號ノ一

大正十一年八月十七日

宮田内閣書記官長



亞細亞

本

植原外務次官殿

一 若トシ撤兵ト共ニ南樺太守備隊増員ニ関スル
 樺太豊原町長水野綱吉請願
 二 公州守備隊存置ニ関スル忠清南道公州金剛嶽請願
 一 金化守備隊撤廢延期ニ関スル朝鮮金化郡民代
 表小川幸次外三十五名請願

陸軍省

右貴省主管ノ件ニ付書類及回付候

請願書

5-1439

0197

サガレン州撤兵ト共ニ南樺太守備隊増員ニ
 願
 過般サガレン州ノ撤兵聲明セラレルヤ邦領樺太ノ
 人心ヲ刺戟スル事少カラス對岸ノ物情俄ニ急
 変ス可キヲ想像シテ不安ヲ感シ島ニ俄然ト
 シテ島内ノ輿論高潮シ該地方ノ駐兵撤退
 ト共ニ其一部ヲ割テ是ヲ一葦帶水ノ南樺太
 ニ留メ一ハ對岸ノ緩急ニ備ヘ他ハ以テ邦領ノ守
 備ヲ完カラシムヘシト要望シテ已マス今テヤ舉島
 一致シテ是カ實現現ヲ期セントスルモノノ如シ仍ツテ
 左ニ聊カ其理由ヲ陳述シテ閣下ノ明断ヲ煩ハサ
 シトス
 我南樺太ニ於ケル守備ハ北方内路ニ於ケル中

隊ト豊原ニ於ケル一小隊トヲ以テ是ニ任シ居レリ
 ト雖内路ノ地タル邦領絶北ノ僻地ニシテ人煙稀
 少豊原トノ交通ハ夏季ト雖十數日ヲ要シ冬期
 ニ至リテハ連絡全ク杜絶スト去フモ不可ナレ徒ツテ
 邦領人全土ニ對スル事實上ノ守備ハ一ニ豊原ニ
 於ケル一小隊ノミ然ルニ新開殖民地ノ故ヲ以テ警
 察ノ組織未タ完備セス姑ク外患ノ事ナシトス
 ルモ住民既ニ十一万加フルニ近時島内ノ開發ニ
 伴ヒ炭坑夫及ヒ工廳管鐵道新線工事ノ土工
 ミニテモ數千ヲ算シ經營者トノ爭議亦絶無
 トスベカラス這般ノ事情ヨリ見ルモ内外ノ形勢力
 安定ヲ許サザル絶海ノ新領二千二百三十九方里
 守備ノ大任ヲ僅カニ四十名ノ兵員ニ依頼セントスル

ハ既ニ島民ノ一日モ安堵シ能ハサル處ナリ我サガ
 レン軍政部ヨリ最近樺太ニ達シタル公文ニ
 依レハ予夕軍ガ黒龍江ニ機械水雷ヲ敷設セ
 ル爲メ同江下流及間宮海峡方面ニ出漁又ハ航
 行ノ船舶ノ危險ヲ警告報シツツアリ我駐兵中ニ
 於テモ暴虐斯ノ如シトスレハ全部撤兵後ニ於テ
 ル對岸物情ノ競々タルモノアルヘキハ是ヲ想像ス
 ルニ難カラス朝議既ニ確定シタリト雖撤兵ノ一
 部ヲ南北樺太ノ向シカニ駐メントスルノ議アラハ須
 ラク南樺太ニ於ケル守備ノ現状ニ想到スハシ
 況ンヤ亞港ニ於テ現在以上ノ兵員ヲ冬營セシマル
 營舎ナキニ拘ラス我豊原ニ於テハ二箇大隊ヲ收容
 スルニ足ル兵舎完備シ加フルニ物資供給ノ關係

ニ於テ南境ノ差アルニ於テヤ
 或對岸危急ノ際ニ當リ南樺太ヨリ出動セシム
 ルハ小樽ヲ經テ北海道ノ常備兵ヲ派遣スルニ
 異ラスト云フモノアル可キモ南樺太守備充實ノ
 事タル事ニ軍事上ノ理由ノミニ依レルニアラス親
 戚故舊ト別レ絶海ノ新領ニ定着シ官憲ノ保
 護厚キニ信頼シ汝寒積雪ト闘ヒ銳意其
 業ニ従ヒツツアル移住民ニ對シ其地ニ安堵セシメ
 ントスルニ在リ今ヤテ港ニ港方面ノ兵員撤退
 ニ際シ之レヲ全部内地ニ歸還セシムル事ナク其
 部ヲ割キテ豊原ニ駐屯セシメ更ニ其後部ナク
 以テ内路諸島間ノ主要地ニ配置シ其連絡ヲ
 完ラセシムルハ獨リ帝國ノ北方警備上ニ於テ緊

要ナルノミナラス邦領ノ守備ヲ完カラシメ南樺太
 ノ拓殖並ニ帝國ノ北方發展ニ資スル所宜ニ
 甚大ナルモノアルヘント信ス
 右ハ本島居住民全体ノ渴望ヲ止マサル所ナリ
 爰ニ事情ヲ具申シテ切ニ閣下ノ考慮ヲ希フ

大正十一年七月三十一日

樺太豊原郡豊原所長水野綱吉



内閣総理大臣加藤友三郎殿

公州守備隊存置ニ關スル請願

當公州地方ハ守備隊駐屯以來民心安定シ良民其業ニ安ニシツ、アリ市民等ハ衷心之ヲ感謝ス
守備隊ノ駐屯ハ獨り地方ニ安定ヲ與ヘシノミナラス其義勇奉公并軍規嚴肅ハ内鮮青年ニ好箇ノ範ヲ示シ彼等ハ其修養上得ル所尠ナカラス引イテ内鮮融和上著シキ好影響ヲ與ヘツ、アリ彼等ノ父兄ハ大ニ之ヲ德トス

公州市民ハ茲ニ於テ公州守備隊ノ駐屯益々永カラシコトヲ切望シツ、アリ此秋ニ當リ俄然近ク撤廢セラル、ト聞ク市民ハ驚愕惜ク所ヲ知ラス抑モ我朝鮮ハ内地ノ夫レト事情ヲ異ニス治安維持又經濟上ノ云々ハ今改メテ之ヲ云ハス其駐屯カ民衆ノ教化青年ノ修養上大ナル功獻ヲナシ文化政治上ニ資スルコト夥大ナリトスレハ撤廢カ國家財政上ニ及ホス利益ト撤廢ニヨル有形無形ノ損失ト比シ果

シテ幾許ノ利アルヤ都會ノ地ノ凡ヲ以テ偏僻ノ地ノ凡ヲ同シク律スヘカラス都會ノ地ハ文化上ノ施設完全ナルモ小都邑ニ於テハ尚大ナル間缺アリ其間缺ニ補益シツ、アル守備隊ノ撤廢ヲ聞キ地方民ノ驚愕自失スル故ナシト云フヘカラス

公州守備隊ヲ存置セラレニコトヲ懇願ス

大正十一年八月

忠清南道公州繁榮會會長金閔煥

内閣總理大臣男爵加藤友三郎殿

金化守備隊撤廢延期請願書

反蘭を處に依りハ金化守備隊今又撤廢セラルニ決シタル者ノ如ク斯クノ如クハ招り金化郡民ノミナクハ本道関係郡民ニ於テモ害ニ重大ナル關係ヲ及ボシ終ニ生命財産及祖先墳墓ノ地ヲ止ムナリ退去スルノ悲境ニ立至ル可ク此處ニ於テ我國民先者性視傍觀スヤカクサルノ一大恨事ニシテ地方民ノ激起トナリ守備隊撤廢延期ノ請願書提出ヲ案現セシムルニ至リ軍備縮少ニ関シテハ上列ノ事ニ急願ニ去ラセラル義トハ存案得共今同ノ縮少ニ関シテハ朝鮮ノ如ク特殊地ニ及ボサヤル極留意ヲ仰ヤ左記各項ニ就キ第一御熟慮ノ上願書提出守備隊撤廢延期相成ヌ候旨ニ郡民一同謹シテ奉請願書也

左記

(一)本郡ハ江原道ノ一部ニ過ヤスト雖モ本道ノ中部ニ位シ殊ニ志城元山ニ通スル一等道路ノ中間ナリ又春川華川鐵原平康淮陽楊口ノ各郡ニ通スル道路ノ中心地且ヨ金剛山ノ本街道ナルヲ以テ守備隊所在地トシテハ尤モ必要ナル地トナルヲ以テ去ル明治三十八年ヨリ大正六年迄引續キ守備隊ノ設置アリ又大正八年四月ヨリ現在ノ守備隊常設トナリ為メニ郡民稍々其業ニ安シツクアリシニ今又撤廢ノ噂ヲ聞キ郡民ノ不安其極ニ達シ茲ニ郡民大會ヲ開キ守備隊撤廢引留運動ヲ成スニ至リ本郡ハ前條ノ如ク道ノ中部ニ位シ各郡ヲ扼シ居ル關係上守備隊ノ常設ハ勿論尚ホ進シテハ大隊ニ編成ナラハ可キ尤モ極要ノ地ナリ

(二) 守備隊派兵ノ關係上不逞鮮人ノ暴舉漸々鎮撫セ
シ如ク視エルモ之レハ一時的(威壓的)ノ現象ニシテ同隊
ノ引揚ヲ睹ルカ忽チニシテ不逞ノ徒再起スルハ火ヲ
睹ルヨリモ瞭カナリ

(三) 不逞鮮人ノ出沒ニ関シテハ目今國境ニ重兵ヲ置キ掃
蕩セウシヨリ此處ニ於テ各守備隊ノ撤廢ヲ案行
セウシヨリ彼等ハ其機ニ乘リ捲土重來ノ勢ヲ以テ再
起スルハ言ハ保ヤル也ナリ

(四) 警備署ノ設置見モ守備隊常設ノ關係上甚カ微
弱ナルモノニシテ萬一不逞ノ徒蜂起執事素セキカ忽チニシテ
各官署ノ全滅ナリ一般人民保護ノ如キハ到底望ム
可カラサルハ明瞭ニシテ如何モ方法ヲ講スルモ善良ナル内鮮
人ノ保護ニ任充テ不可能ナルハ理ノ當然ナリハ守備隊ニ匹
敵スル警備力ノ充實ヲ待テ其上ニテ撤廢セウシテ切ニ
望ム者ナリ

(五) 本江系道ノ御承知ノ如ク京上不逞鮮人ノ暴舉ニシテ目今
ニテモ咸南北ノ徒ト氣味ヲ通ジ以テ凡形跡見テ以テ他ノ
南鮮地方ノ状況トハ全然趣キ異ニシヨリ凡チ以テ此邊ノ處
御賢察ヲ希フ者ナリ

大正七年七月二十五日
金化郡民代表者

小川半次

松浦正輔

吉村茂市

楯崎正太郎	廉達溪	前田米作	上岸備造	渡部倉藏	寺島長太郎	寺澤市太郎	金龍變	廉達漢	杉本山助	越後福松	趙學俊	朴允錫	黃洙止	金昌煥	朴亨國	廉錫憲	朴鍾植	金鍾鎬	金輝珪	金葵根	李元夏	金基玉	金弘植
-------	-----	------	------	------	-------	-------	-----	-----	------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

内閣総理大臣男爵加藤友三郎殿

金鳳根

文尚復

岩永辰一

前田藤平

田中武二郎

李永信

生越勝蔵

廉喜成

金永泰

大 次 官 臣
亞 細 亞
歐 米 亞
通 商 條 約
情 報 事 務
人 事 計 劃
會 計 書
文 書
平 和 條 約

電 信 案

電信課長

(丙號用紙)

暗號 發電大正十一年八月十八日午後五時五分 送電番號六三二四 奉天經由長春經由

主 管 歐米局長 任 主 (起草大正十一年八月十八日)

件名 滿洲方面へ引揚者ノ簡易通商手交場ニ関スル件

名 込 綴

受信 在 北 東
人名 小幡公使宛
發信 人名 内田大臣

第 四 五 一 號

在 哈 爾 濱 免 稅 貨 物 運 送 條 約 第 八 條 第 三 項 關 於

貨 物 運 送 條 約 第 八 條 第 三 項 關 於 貨 物 運 送 條 約 第 八 條 第 三 項 關 於

電 信 案 外 務 省

結果 尚 回 答 有 無

第...
第...

11225 暗 浦潮發 大正十一年八月十八日 午後三時九分
本省着 午後九時五分
内田外務大臣 松村總領事

第...三群

貴電第一五三號 三開

一、銀行側に於て金庫保管の責任は且管内
適當の場所を其の餘裕アラハ差支無中見込

二、當館に斯う如キ荷物ヲ置ル場所迄シテ
且保管ノ責ニ任スル能ハサルニ付依頼
應シ難シ (終リ)

電信課長

大臣

次官

性

亞細亞

通商

條約

人情

會事

文書

平和條約

5
3
2

件名

綴込名

大正十一年八月十七日 后三三六

本省着

内田外務大臣 板松村総領事

大正十一年八月廿四日記録係接受

第三二〇號

第ニニ〇號
 本邦又ハ朝鮮方面ニ引揚、目的、
 以テ一旦当地ニ引揚ゲ來ル者、目下、所
 日本人本邦(敷賀又ハ門司行)行約八
 百名朝鮮(雄基・清津・城津・釜山・
 仁川行)行約二百名又朝鮮人中朝鮮
 各地ニ引揚ゲントスル者約千五百名ニ趣
 所彼等一行ハ八月廿五日迄ニ当地着、
 豫定ニテ一應当地軍部所屬建物ニ

収容ノ密ナルガ収容並給養期日、都合不
 付到着ノ上、一日モ早ク当地ヲ出發セ
 シメ度ク、就テハ右一行ニ對シテハ引揚民
 用トシテ船舶差遣、御手配アリタシ尚
 当地在留民中前記地方引揚希望
 者ハ目下三十餘名ナルモ未ル九月下旬
 コリ十月初旬ニ至ラニ相当多數ニ上
 ニキ見込

電信課長



大臣

次官

法要付了

11184

(略)

件名

緬甸海峽
本年八月十八日付電第三七
番第三〇〇



外務大臣

松村総領事

第三一號

電報第一四三號引揚民用旅費トシテ貨物

セラシハ中亞細ヤ東トシテ送附無テ處當地方格

費ノ貨物トシテ送附無テ處當地方格

アリ候事ハ何モ他人ノ死介ニテ行ハルモノニテ

早目ニ送付セシメテ之ヲ以テ窮餘不体裁ノ行

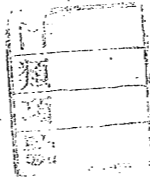
為ニシテ却テ人ノ体面ヲ毀損スルニ至ルノ懸念アリ

ニ付旅費ハ便宜當被ニ於テ立替ノ上適宜本邦

行運期船トシテ便乘引揚民板ニ依リ去者セシム

一ノ付付金置アリトシテ為往電第三二〇號次

大正八年八月十八日付電



平和條約 文書 會計 人事 情報 條約 通商 歐米 亞細亞

第三二〇號付電第三〇〇番第三七番第三〇〇
除ノ件ハ今尚極力交渉中ナリモ結局一高カハ
貨物ノ外無カシハ見込

大正八年八月十八日付電

出子日記
...

一、為羅北ニ付 撤兵終了迄ハ 絶体ニ人員
融通付カス

第二ニニ 脚
内 實 居 留 民 ノ 引 揚 之 間 不 同 事 務 其 他 撤 兵
ニ 伴 フ 生 じ 難 務 近 來 撤 増 之 到 底 當 該 現
員 之 少 少 理 之 難 付 左 件 々 急 急 申 請 裁
減 等 事 記 生 又 通 譯 生 急 撤
一、臨時雇及佛人料ニケ月分ニケ前迄
印刷費其他雜費一千圓迄切増額
一、臨時増量ニ付テハ 政務部ト打合セリ
同部ニ撤兵ニ伴フ事務増加、上書類總

11213 (晴) 浦河港全工員名目表 四三〇
内 内 務 大 臣 松 村 鉄 領 事

陸軍省

陸軍へ依頼スヘキ事項

八月二十日依頼書

(已着用紙)

大蔵省
25.26日
1915年

大蔵省
25.26日
1915年

陸軍省
25.26日
1915年

秘

一、引揚者輸送船舶ノ備入、機装、廻航等ニ關スル件世語ヲナスコト
(引揚者ノ目的地別ハ別紙ニ在リ)
二、奥地引揚者(邦人朝鮮人共)及其ノ携帶荷物、持戻商品ヲ備置軍
事輸送トスルコト

(イ) 本邦へ引揚ノ場合ハ出發地ト浦潮間
(ロ) 滿洲方面へ引揚ノ場合ハ出發地ト哈爾濱乃至長春間

三、一及ニニ關シ出國手数料及關稅ノ免除乃至簡易取扱方ニ付露支双方へ交渉中ナルカ已ムヲ得ザル場合ニハ之ヲ支拂フコトトスヘキ
モ右輸送ニ付テハ軍用船又ハ軍事輸送ノ名義ヲ曹蘇使用スルコト
四、奥地ヨリ滿洲ニ引揚ケタル者(邦人朝鮮人共)其ノ他ノ國民ニ對

外務省

(已着用紙)

ノ宿舍及糧食ヲ貸與スルコト

五、不良分子ハ憲兵隊ノ手ニテ捕縛セシムルコト

六、其ノ他ノ細目ニ關シテハ出先領事ト軍部ト協議ノ上實行スルコト

外務省

引揚先
前記の商手書
約千八百
約千八百
約千八百
約千八百
約千八百
約千八百

尼市居留民引揚先 (手書多前記の商手書に依りて)

邦人	哈爾濱	長春	朝鮮	教習 (内地各方面)	前
(西九)	(東五)	(東五)	(東五)	(東五)	(東五)
十一人	十一人	十一人	十一人	十一人	十一人
三〇六	三〇六	三〇六	三〇六	三〇六	三〇六
721	721	721	721	721	721
1139	1139	1139	1139	1139	1139

出張(手書内)

浦内湖 浦内湖

前記の商手書に依りて

約千八百

外務省

(已用紙)

112
306
721
1139

112
306
721
1139

149
305
228
141
310
45
1178

「スバスコエ」居留民ノ引揚先

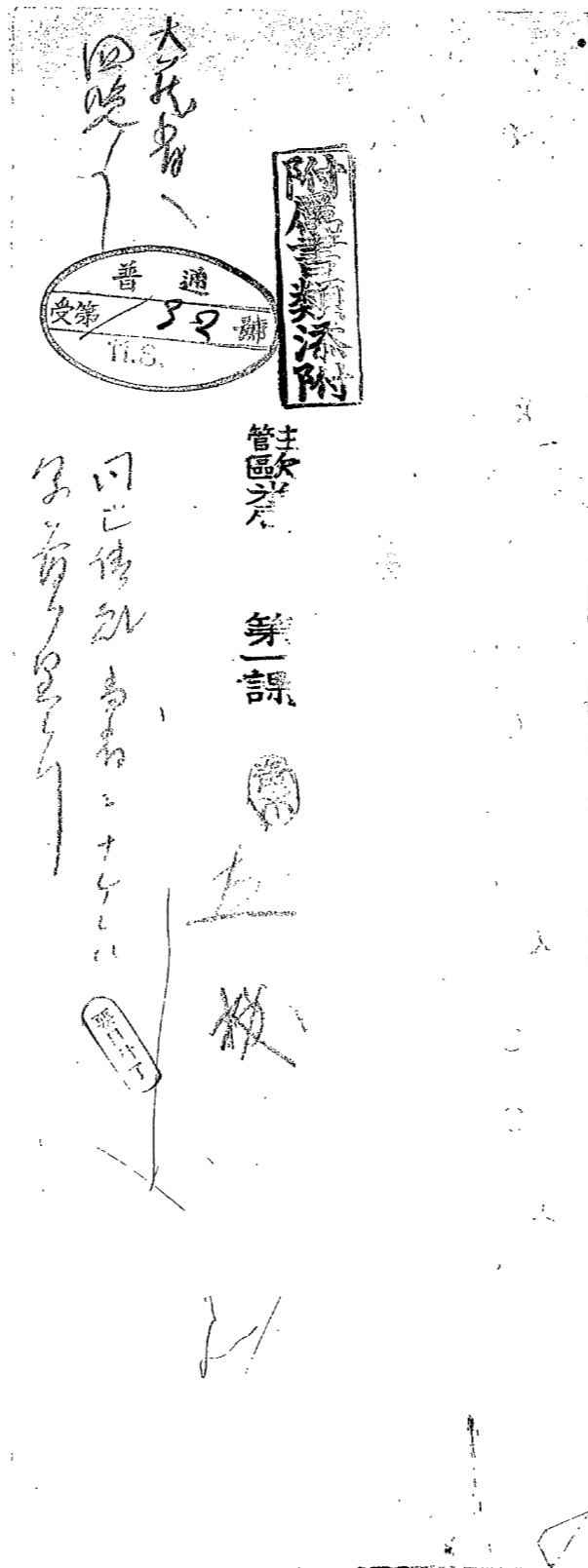
邦人	哈爾濱	長春及以南	朝鮮	教習 (内地各方面)	前
二二三	五〇	一二五	一〇〇	二九七	

前記の商手書に依りて

約千八百

(已用紙)

外務省



5-1439

0214



内閣雜乙第二三號ノ二

大正十一年八月十七日

宮田内閣書記官長

壇原 外務次官殿
西野 大藏次官殿

一、皇軍西伯利撤退ニ關スル露領沿海洲ニコリスク市内藤頼吉請願
右貴省主管ノ件ニ付書類及回付候

外務省

(已號用紙)

(已號用紙)

請願書

曩ニ吾人ハ各地居留民ト聯合シテ大會ヲ催シ皇軍西伯利撤退ニ關スル善後策ヲ議シ滿場一致ヲ以テ二條ノ決議ヲ爲シ西伯利在留民ノ意志ヲ天下ニ表示セリ

吾人ハ撤兵後ニ於ケル居留民ノ保護ニ關シテハ機宜ノ措置ヲ採ルヘキ旨ノ聲明ニ對シ滿腔ノ信賴ヲ措クモノナリ

然リト雖モ之レヲ皇軍出兵前勞農政權施政時代並ニ大正九年一月革命當時ニ想ヒヲ致サハ吾人ハ慄然トシテ膚ニ粟ヲ生セサルヲ得ス況ンヤ當時ニ比シ政情益々惡化シ秩序愈々紊レ綱紀更ニ頹廢セルノ時假令尼港ノ慘劇カ再ヒ爲サルルノ憂ヒ無シトスルモ馬賊其他不逞團ノ跳梁排日鮮人ノ脅威兇徒ノ横行ハ必ラス頻出スヘク加之露國政府

外務省

(已號用紙)

ノ無力ナル如斯非常時ニ際シ能ク住民ヲ保護シ得サルハ之ヲ過去ノ事蹟ニ徵シテ明白ナル事實ナリ況ンヤ皇軍撤退後露國政權確立ニ至ル無政府狀態間ニハ誰カ尼港ノ慘劇間島ノ暴舉カ反覆サレ^保ス^得ルモノソ

吾人カ露國政權保護下ニ縱令其ノ保證アリトスルモ安^シテ在留シ得サルハ此故ニシテ撤兵後帝國政府直接保護下ニ置カレンコトヲ請願スルモ此所以ナリ

在留民ヲ直接保護スル手段方法蓋シ多樣アルヘシト雖モ現時西伯利亞ニ於ケル支那民警制度ノ如キハ最モ簡易ニシテ比較的有力ナルモノナリト信スルモノナリ該制度ハ支那在留民ノミヲ保護スル條件ノ下ニ露國政府ノ同意ヲ得テ設置セルモノナリ帝國政府モ之レニ倣ヒ

外務省

秩序定マリ政情稍安定スル迄優秀ナル警官ニ完全ナル武装ヲ施シ居留民ヲ確實ニ保護シ得ル敷ヲ領事館又ハ居留民會ニ配屬サルルニ於テハ吾人ハ現住地ニ殘留スルコトヲ得ヘシ
翻テ露國經濟界ノ現状ヲ視ルニ外患内憂數年ニ亘リ將ニ破綻ニ瀕シ居リ之ヲ救フハ外資流入ノ一途アルノミニテ露國民ノ上下ヲ擧ケテ切望スル所ナリ

(已號用紙)

吾人ハ既ニ露鮮人等ト一致協力以テ拓殖ノ策ヲ講シ極東住民ノ一般的幸福ヲ目的トスル機關ヲ組織シ共ニ生活ノ安定ヲ得ル準備ヲ爲シツツアリ、サレト露貨ノ暴落、幣制ノ改革、數次ノ引揚ニヨリ貨財ヲ蕩盡シタル吾人ハ茲ニ巨額ノ資金ヲ投シ規模ノ大ナル機關ヲ組織スルハ望ミテ行ヒ難キコトナルヲ以テ先ツ零碎ナル資金ヲ集メ日露

外 務 省

(已號用紙)

購買組合ヲ組織セルヲ始メトシ水田ヲ開墾シ菜園ヲ拓シ精米所ヲ建設シ家屋ヲ建築シ店舗ヲ開設シ露鮮人ヲ招キ或ハ之ニ參與セシメ或ハ職ヲ與ヘ或ハ種々ノ便宜ヲ與フル等其ノ親善協力ニ努力セルニ事業其ノ緒ニ就キテ日未タ淺キニモ拘ラス其ノ效果著シク多大ナル好感ヲ以テ一般住民ニ迎ヘラレツツアルハ民族發展ノ爲メ竊カニ欣快トスル所ナリ

外 務 省

(已號用紙)

然ルニ六月二十四日ヲ以テ帝國政府カ中外ニナセル西伯利亞撤兵斷
行ノ聲明ハ實ニ吾人ヲシテ驚愕昏亂其ノ去就ニ迷ハシメタリ
吾人ハ遠ク母國ヲ離レ泣寒ノ異域ニ奮闘努力スルコト長キハ數十年
短キモ十數年露人ト親シミ鮮支人ト交ハ^ル苦辛經營今日ニ及フ極東
露領ハ第二ノ故郷ニシテ一度ヒ此ノ地ヲ去ランカ吾人ハ地盤ヲ喪ヒ
生計ヲ失シ忽チ糊口ニ窮スルノミナラス帝國ハ適恰ナル西伯利亞經
濟發展先驅者ヲ失フヘク此ノ間他國ノ勢力ハ猶豫ナク浸潤シ吾人カ
再ヒ渡來スルノ日今日ノ地位ヲ獲得スルノ業容易ニアラサルヘシ
茲ニ吾人カ懷抱セル邦人經濟的發展ヲ助長スルノ策多端アリト雖モ
最モ適切ニシテ效果多キハ此ノ際居留民ノ各階級各職業ニ亘リ利用
シ得ヘキ金融機關^{株式}ヲ設置スルニ若クモノハ非ラサルヘシ茲ニ於テ困

外務省

(已號用紙)

憊セル邦人ノ經濟ヲ救済スルト同時ニ其ノ四散ヲ防クハ獨リ西伯利
亞在留民ヲ救フニ止ラス殖民政策ノ基礎ヲ樹立スルノ策タルヲ信ス
ルモノナリ
仰キ希ハクハ閣下吾人ノ微衷ヲ聽キ切實ナル^誠意ヲ容レ在留邦人ヲ
シテ撤兵後ト雖モ安シテ居留シ日露通商ノ先驅者タルヲ得セシメラ
レン事ヲ尙更ニ皇軍ノ撤退ノ爲メ遂ニ引揚ヲ餘儀ナクセラルルモノ
モ續出セントス之レ等大部分ハ數次ニ亘ル政局ノ變轉ニ禍セラレ全
ク經濟的存在ノ基礎ヲ失ヒタルモノナリ此ノ際餘儀ナキ引揚者ニ對
シテモ是又適當ノ方法ヲ以テ救助ノ策ヲ購セラレンコトヲ
茲ニ居留民ヲ代表シ謹^クテ謁願ヲ上ル幸ニ採納セラレンコトヲ

頓首敬白

外務省

(已號用紙)

露領沿海州ニコリスク市日本居留民會會長

内藤 頼吉

内閣總理大臣子爵 加藤 友三郎 關下

外務省

分類
項目
信課長

大臣
大官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 不相條約

件名

綴込名 亞細亞 條約 保管 責任 松村 總領事

11225 暗

浦潮發

大正十一年八月十八日

午後三時九分
午後九時十分

本省着
内田外務大臣 松村總領事

大正十一年八月廿壹日記録係接受

第三二三號

貴電第一五三號ニ關シ
銀行側ニ於テ金庫保管ノ責任ニ且管内
適當ノ場所ニ其ノ餘裕アリハ差支無キ見込

二、當館ハ斯クノ如キ荷物ヲ置ル場所モ
且保管ノ責任ニ能ハサルニ付依頼
應シ難シ (終リ)

5-1439

0220

平和條約 文書 會計 人事 情報 條約 通商 歐米 亞細亞

○次官

○大臣

大正十一年八月十九日

電信課長

電信案

暗號 發電大正十一年八月十九日 午後五時十分 送電番號 六八八 奉天經由長春經由

管主 歐米局長收

任主 (起草大正) 年 月 日

左 校

件名 居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚

受信人名

在浦混和村總務

發信人名

西田久臣

第一十八號

至急

件名 居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚

電信案

外務省

一、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 二、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 三、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 四、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 五、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 六、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 七、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 八、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 九、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 十、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 十一、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 十二、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 十三、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 十四、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 十五、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 十六、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 十七、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 十八、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 十九、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 二十、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 二十一、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 二十二、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 二十三、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 二十四、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 二十五、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 二十六、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 二十七、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 二十八、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 二十九、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 三十、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 三十一、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 三十二、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 三十三、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 三十四、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 三十五、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 三十六、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 三十七、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 三十八、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 三十九、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 四十、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 四十一、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 四十二、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 四十三、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 四十四、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 四十五、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 四十六、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 四十七、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 四十八、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 四十九、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 五十、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 五十一、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 五十二、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 五十三、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 五十四、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 五十五、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 五十六、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 五十七、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 五十八、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 五十九、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 六十、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 六十一、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 六十二、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 六十三、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 六十四、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 六十五、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 六十六、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 六十七、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 六十八、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 六十九、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 七十、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 七十一、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 七十二、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 七十三、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 七十四、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 七十五、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 七十六、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 七十七、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 七十八、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 七十九、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 八十、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 八十一、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 八十二、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 八十三、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 八十四、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 八十五、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 八十六、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 八十七、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 八十八、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 八十九、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 九十、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 九十一、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 九十二、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 九十三、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 九十四、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 九十五、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 九十六、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 九十七、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 九十八、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 九十九、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚
 一百、居留民引揚階之從價高率ノ後 引揚

(成號用紙)

録ヲ作成シ(品物引合ニ於テ作成セシモノ) 欲
事ノ証明ヲ要ス(貨物引合ト同時ニ之
ヲ簡法程同) 提スルニ付ト

三 在日録ニ物品(一包装毎)トノ計照者
光ノ^件爲物品者、個數、數量、貨物、

生産地及見積價格(貨物生産地及見積

價格ニ商号、限) 亦付ト商号トノ區別

外務省

ヲ記載スルニ付ト

四 簡法程同、在日録、依リ貨物ヲ

引合シテ其^件得^ル限リ簡易ニ簡法程同

ニ付ト

右抄取即日、収受了り候

門類
項
號

電信課長

大臣

次官

亞細亞

主

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

件名

綴込名

大正十年八月廿四日記録係接受

11236

浦塩費

大正十年八月

松井 總領事

第二三四號

即引了大臣

第二三四號

浦亦西々為氏外務八月二十了了同始八月
二十四日終心引揚人民行先左ノ通

冷年實 一四九

長考 三〇五

致賀 一四一

内司 三一〇

浦塩 二二八
浦塩 四五
合計 二七八

鮮人

冷年實 一一二

長考 三〇六

浦塩又北鮮 七二一

合計 二四二

高第課

尼市居留民引揚先

邦人	八五〇	鮮人	一一五
哈爾濱	五二四		一九
長春	一一一		六六八
清津	一七九		〇二
門司 (長崎、熊本)	八九		
敦賀 (關西方面)	三六		
浦湖	一〇三六		
計	1036		
	609		
	<hr/>		
	427		

出國手数料貸
與ノコトトナ
ヲハ長春行ノ
約五百名ハ浦
湖通過ニ變更
スヘシ

此ノ内ハ
滿州ハ二八名
在トスル

外務省

(已號川紙)

「スバスコエ」居留民ノ引揚先

邦人	二二	鮮人	二九
哈爾濱	五〇		二六
長春及以南	七三		五〇
計	145		76
	<hr/>		221

在滿邦人
三二〇

朝鮮
一〇〇

新入引揚者
三〇〇

三人 (在滿邦人)
一四三 (朝鮮)
計 183

(已號川紙)

外務省

11276 平 浦潮 大正十一年八月十九日
本省着 后九三〇
内田 外務大臣 松村總領事
往電第三四號 郡司ヨリハ 杉野ヨリト
御訂正有度シ

庄留氏引揚ノ件

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 人情 報事 會計 文書 平和條約

門類	532
項	52
綴込名	朝鮮半島の歴史を研究する
件名	朝鮮半島
備考	古抄入り

昭和二十九年九月四日 記録係 接受

主改

浦塩炭 11272 (平) 本年八月十九日付。五七、八、五二

内田外務大臣

松村総領事

11255 (平)

將來当地居留民ニシテ事業ヲ以テ變化ニ伴ヒ一時ニ多數ノ歸民有リ生知ル場合アルベキヲ慮リ此際当地教員及當地朝鮮各港ヨリ定期航路ヲ定為シ臨時増設ハ方豫メ認可相本條遵照者ハ中交渉置キアリタシ

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 人情 報事 會計 文書 平和條約

綴込名	件名

昭和二十九年九月三日 記録係 接受

主改

浦汐炭 11236 (平) 本年八月十九日付。五七、九、〇

内田外務大臣

松村総領事

11222 (平)

杉野領事ヨリ11228号大臣へ転電ヲ請フ11277号抽出11255号中長春行鮮人ノ數ハ四五〇ト訂正

門類
項
號

電信課長

件名
綴込名

主改

大臣
次官

3

11274 (晴) 浦潮波 大正五年八月十九日 〇、五、八
本署着 九、一、五

内田外務大臣

柏村總領事

大正五年八月廿六日記

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約

第二二七号

貴電于一五五号ニ関シ

當館管内奥地引揚者中長春
以南十二朝鮮各地二百四内地
二百 内本日迄分也ル者東京八
貴知一 大阪二 福井一 長崎二十
大分二 鹿兒島一 福岡一 豊後一
青森一 熊本十一 佐賀十九
此書浦汐在留者目下大體ニ於テ

未ダ去就ヲ決シ居ラズ将来ト雖モ
著シク危険ヲ感スル迄ハ一時ニ予
ノ引揚者ヲ出スコト無カルベシ定期
船ニテ一回五、六十名宛引揚ガルト
ナルベシト 觀望中ナル

門
類
項
號

大臣
次官

電信課長
亞細亞
歐米商
通商條約
人情報
人事計
會計書
和平條約

電信課長

11260 平
貴電沿海洲引上邦人、携帶品等送還
ノ件、引越貨物、付テ、相當便宜ノ圖、ハ
其、他、一般ノ例、依リ、度、尤モ内地税關
ト同一振、據ラシ、ハ、差支無キ、依リ、若シ
其、向、ト交渉セラシ、夕、ハ、其、結果、ヲ
御、通報、得、ル、ニ

11260 平
本者著 大正十一年八月十九日
後六、一、〇

件名

綴込名 爲 華 南 陸 運 爲 引 揚

切 却 人 引 揚

大正十一年八月廿貳日記簿係接覽

門
類
項
號

大臣
次官

電信課長
亞細亞
歐米商
通商條約
人情報
人事計
會計書
和平條約

電信課長

11241 晴
第五七號
引揚居留民、輸送ハ二十一日ヨリ開始ト決定
セ、依リ、長春以南ノ行先地迄、日本及朝鮮
以外ノ旅費貸與ヲ願ヒ出シ、者ニ對シテハ、夜
、証明書ニ依リ、長春領事館ヨリ通牒ヲ
受ケ得、採計、ハ、請、ク、所、差、支、有、ラ、至
急、所、迄、電、ヲ、請、ク

郵司副領事

件名

綴込名 爲 華 南 陸 運 爲 引 揚

切 却 人 引 揚

本者著 大正十一年八月十九日
後六、一、〇

大正十一年八月廿貳日記簿係接覽

電信課長

門	5
類	3
号	2
號	

件名

綴込名 爲之輩年ノ際在るヨリ揚

也即ハ揚

三三三

大臣 次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

11276 年

浦潮 本省着

大正十一年八月十九日

后一、二、三、四

内田

外務大臣

松村總領事

郡司

ヨリハ 杉野ヨリト

御訂正有度シ

庄留氏引揚ノ件

大元名ノ例
電報

3

11260 年

京城道 宣統二年八月十九日 前六日

貴電沿海洲引上邦人、携帶品等送還
件引越貨物付テ、相當便宜ノ圖ニテ
其、他一般ノ例ニ依リ度ニ尤モ内地較
ト同一振、據ラシハ、差支無キニ依リ
其、向ト交渉セシメ、若クハ其、結果ヲ
知、通報ヲ得タシ

門
5
2

○記録へ下ケ

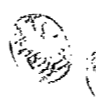
歐米局第一課

沿海州居留民引揚者數及其ノ行先

(八月十九日迄到着セル報告ニ依ル)

湯原
向原
八月十九日迄到着セル報告ニ依ル

通商手続課



外務省

露米革命際在露居留民引揚
本邦引揚
(一) 渡用紙

5-1439

0231

本表ニハ管内奥地引揚者ノミヲ揚ケタリ
 浦潮市在留者ハ未タ去就ヲ決シ居ラス將來ト雖著シキ危險無キ限リ一時ニ多數ノ引揚者ヲ出スコトナカルヘク定期船ニテ一回五六十名宛引揚クルコトトナルヘシ

第一 在浦潮總領事館管内

長春以南	一三
朝鮮各地	二〇四
敦賀	二〇〇
長崎	二〇
佐賀	一九
熊本	一一
東京	八
大阪	三
大分	三
愛知	一

(内折込折明)

外務省

(已號用紙)

福井	一
福岡	一
鹿児島	一
愛媛	一
青森	一

外務省

(已號用紙)

引揚ハ八月二十
 一日ヨリ開始シ
 八月二十四日ニ
 終了スル筈

第三 在尼市出張所管内

邦人		鮮人	
哈爾濱	一四九	一一三	
長春	三〇五	三〇六	
浦湖	四五		
清津	二二八	七二四	
敦賀	一四一		
門司	三一〇		
計	一一七八	一一四三	

南潮
 北鮮
 七二四

(L 號用紙)

外務省

「スバスコエ」
三千ノ朝鮮人アリ
内正當旅券所持者
三八居會保證者
一四五

第三 在「スバスコエ」出張所管内

邦人	二二	
哈爾濱	五〇	
長春及以南	一二五	
朝鮮	一〇〇	
敦賀(内地各面)	二九七	
計		二九七
長崎	三八	三
熊本	一三	三
福岡	七	三
福岡	六	三
大阪	五	三
鹿児島	四	三
佐賀	四	三
高知	三	三
石川	三	三
岐阜	三	三
北海道	三	三
滋賀	三	三

(已號用紙)

外務省

和歌山	三
神奈川	三
島根	三
山口	三
東京	一

(已號用紙)

外務省

大臣官廳
亞細亞
通商條約
人情事報
會計書
文書

陸軍省
海軍省
文書
平和條約

電信課長

電信案

暗號
發電大正十一年八月十九日
午後九時
發送電番號
奉天經由
長春經由

主 管 歐米局長
主 任 第五課長
(起草大正十一年八月十八日)

件名 南朝鮮長故將方之開
件名 回答一件

名 込 綴

受信 在甫朝
人名 杉村 繁欽 中 義
發信 人名 内田 右 兵 衛

第 五 七 號

復電第111号(開)
南朝鮮長故將方之開

電信案 外務省

等軍抑上協

則ト交済セザレバトノ事トハ付ト杉村取討ハ復
 不良分子ヲ抑止セバノ事ニ在リ
 南朝鮮長故將方之開
 杉村 繁欽
 第五課長
 内田 右 兵 衛

軍(防)トシテ
 杉村 繁欽
 第五課長



大 次 亞 歐 通 條 情 人 會
 臣 官 細 米 商 約 報 事 計 書

電信課長

電信案

(丙號用紙)

暗號 發電大正十一年八月十九日午後五時五分 送電番號 六三九九 奉天經由長春經由

主 管 歐米局長

任 主 (起草大正十一年八月十九日)

第一號

件名 居留民引揚、南、陸軍、休
 類、中、項、通、煤、一、件

名 込 綴

受信 在浦潮

發信 人名 内田右馬

第一五九號

次 光、
 陸軍省卜部

電 信 案

外 務 省

自お料及国税、貸典、其、因、組、ナル、旨、引揚、奉、ニ
 後、亦、セ、ラ、シ、答、ニ、付、ル、事、不、得、已、場、合、ニ、出、示、シ、
 對、料、ヲ、貸、典、ス、ル、事、ト、アル、事、ハ、其、者、有、限、リ、旨、ニ、
 示、カ、レ、タ、シ、

秘

歐米高深謀

歐米高深謀

一、引揚者輸送船舶ノ備入、機装、廻航等

二、奧地引揚者（邦人朝鮮人共）及其ノ携帶荷物、持戻商品ヲ無賃

輸送トスルコト

(イ)、本邦へ引揚ノ場合ハ出發地ト浦潮間

(ロ)、滿洲方面へ引揚ノ場合ハ出發地ト哈爾濱乃至長春間

三、一及ニ關シ出國手續料及關稅ノ免除乃至簡易取扱方ニ付露支双

方へ交渉申ナルカ已ムヲ得サル場合ニハ之ヲ支拂フコトトスヘキ

モ右輸送ニ付テハ軍用船又ハ軍事輸送ノ名義ヲ背離使用スルコト

四、奧地ヨリ浦潮ニ引揚ケタル者（邦人朝鮮人共）其ノ他ノ蠻民ニ對

(已號川紙)

外務省

及宿糧食ノ付授ハ
軍用船ノ乗務員
等ノ食糧ニ付
陸軍省ノ指示
ニ依リテ
行ハルコト

宿舎及糧食ヲ貸與スルコト

五、不良分子ハ憲兵隊ノ

六、其ノ他ノ細目ニ關シテハ出先領事ト軍部ト協議ノ上實行スルコト

(已號川紙)

杉野、郡司ハ務要有知

外務省



大 次 官 臣
亞 細 亞
歐 米 商 約
條 約 報 事
情 報 事
人 事 計 書
會 計 書
文 書

電信課長

電信案

(丙 號 用 紙)

暗號

發電大正

工 年

八 月

十九 日

午後

五 時

三 分

送電番號

六三〇

奉天經由

長春經由

主 任

歐米局長

主 任

(起草大正十年八月十九日)

件名

引揚者長者以第幾號
貸子方、南、件

名 込 綴

受 信 人 名

在、ハ、ス、ク、エ、
郡司副領、中、就

發 信 人 名

内田右造

第 一 號

貴電第... 件

貴見、... 件

電 信 案

外 務 省

一、... 件
二、... 件
三、... 件
四、... 件
五、... 件
六、... 件
七、... 件
八、... 件
九、... 件
十、... 件

大 臣 官 次 亞 細 亞 歐 洲 通 商 條 約 情 報 人 事 會 計 文 書 平 和 條 約

電 信 案

電信課長

(内 號 用 紙)

平 文 發 電 大 正 五 年 八 月 十 九 日 午 後 五 時 〇 分 送 電 番 號 六 三 五 八 奉 天 經 山 長 春 經 山

主 管 歐 米 局 長 任 主 (起 草 大 正 五 年 八 月 日) 秋

件 名

第三七號

名 込 綴

受 信 人 名 朝鮮 政府 總 務 長 官

發 信 人 名 地 方 官 廳

第 三 七 號

今日 撤 告 之 件 事 及 三 月 五 日 之 事 實 引 揚 者 內 地 人 約 之 百 名 及 朝 鮮 人 約 之 百 名 本 月 廿 五 日 由 浦 項 出 發 朝 鮮 若 地 向 一 見 込 事 實 者 之 於 船 中 備 入 之 件

電 信 案

外 務 省

清 津 及 元 山 迄 彼 等 之 輸 送 之 件 上 述 地 之 水 兵 便 宜 供 其 方 可 也 云 云 云

5-1439

0239

大 臣 官 次 亞 細 亞 歐 通 條 約 情 報 人 事 計 會 書 文 平 和 條 約

電 信 案

電 信 課 長

(丙 號 用 紙)

暗 號 發 電 大 正 十 一 年 八 月 十 九 日 午 後 二 時 三 十 分 送 電 番 號 六 二 五 一 奉 天 經 山 長 春 經 山

主 任 歐 米 局 長 任 主 左 (起草大正十一年八月十九日)

件 名 滿 洲 方 面 引 揚 者 一 取 扱 名 込 綴 左

受 信 在 哈 爾 濱 山 内 總 領 事 發 信 在 哈 爾 濱 山 内 總 領 事 人 名 山 田 大 臣

第 二 八 六 號

電 信 案 外 務 省

クニチノヤノ經由黄地内ノ引揚者約八百名ノ送
ルヘキ見込ノ如ク右ノ軍、於テハ哈爾濱及ノ長者迄
無償、輸送ヲイレ長者以南、送費力者ニ限リ
送費亦地内送ノ送費、及食費、ヲ送子ノ下
ニ決定シ居ルニ付、貴友、其布達井、揚事等
ノ事、ハ、
ノ事、ハ、
ノ事、ハ、



門類
大類
項目
號
電信課長

次官 陸

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約



津路

件名 引揚民の村に於ての...

綴込名 露に在る華人の...

昭和八年九月...

11322 (暗) スバスカヤ 大正八年八月三日 五五
内田外務大臣 郡司副領事

第五八号 貴電を承り一一年ニ關シ 大正八年九月...

出放期日切迫セル為滿洲行邦人全部
へ食料現金貸與方祿ノ量側へ交
渉シ其承諾ヲ得置キタルモ中未示
價額次内ニテ立替方ヲ更ニ交渉ス
ルコトハ困難ナルノミナズ食料高ノ
如キハ後日精算ノ節必ス行違シ
生ジ其交渉ニ能ハスルコトハ力ナレバ...

測ハ借入方ヲ断リ引揚民中是
地共貸與ルリ西めスルニハ一日一系五
十元ノ割合ニテ現金ヲ貸與スルコト
ニ取計ヒタリ市追認ヲ請フカ在
ハ二十三日後ノ最遅引揚民引車ニ
テ当地ヲ引揚ガ輸送ノ關係上是市ニ
一泊浦沙ニ卦キ當地居留民ノ引揚
事務ニ從事スル心組ナリ市議認シ
請フ

1133 暗

哈尔滨 金華 王目前六。

内田外務大臣 板山内總領事

第二四六号

ハ鮮人ヲモ含ムル第ニヤ若シ右ヲ含マザル場合

ニハ其概數何程ニヤ關係領事ヨリハ最ニ員數總

定次第本官ニ通知スベキ旨ニ報アリタルニ其後何

等申越シナキニ付御尋ネス尚當地野戰交通部ニ

付報告取集ノ中ナルモ未ク確定數ヲ得ス尚朝鮮

人ヲ含ムトスレバ右ノ中ニテ當地道來ラズ途中

下車スルモハモアリハ將又當地方ニ來ル引揚

ハ白名ト觀敷
ハ白名ト觀敷
ハ白名ト觀敷

會計課長

如件報告ナレ

民中大概何程ハ當地ニ止マル見込ナリヤ其邊
知致シタシ且大正九年中アラゴエヨリノ引揚
民内鮮人合計二百六十一名當地ニ到着シ七月二
十八日ヨリ八月二十一日ニ至ル二十五日間當地
小學校校舍ニ之ヲ收容シ之ニ救助ヲ與ヘ此費用
金四千二百六十餘圓本省ヨリ御支出ヲ得タル處
（大正九年九月二十日附ヲ以テ松島總領事ヨリ當
地居留民會ニ支拂濟）今回ノ引揚ゲニ對シモ二三
リスクハハスルニ兩領事及民會ヨリ當地ニ到着
ノ上職業先發見希望者アル見込申越ナリ且諸事
古話方依頼アリ事情已ムラ得ナルニ付何トカシ
夕チコトハ勿論ナルモ昨今不景氣ヲ極メ居ル民

金付

開ニテハ救助ノ資力ナク又當地民衆ニモ右様ノ
運右救助ニ要スル特別費御支出方御詮議ヲ得タ
ク目下小學校校舍ハ使用シ得ズ且適當ノ宿舍ヲ
ク困却シ居ルモ此点ハ何トカ都合出来間敷クア
ト精々陸軍例ト談合甲ニ付差當リテハ宿舍以外
ノ費用ニ付テ考量ヲ加ヘ尚右豫算ハ當地ニ殘留
希望者數未定ノ今日之ヲ確定シ難キモ大正九
年中ノ割合ニ依ルコトヲ得ル儀ト存ズ又海林其
他沿線地方ニ下車希望ノ鮮人等アリトスレバ右
ニ関シテ各種ノ問題發生ストキニ付之等ニ付テ
モ御考量ヲ加ヘ至急何分ノ御回電ヲ請フ

原典
明治三十八年
四月廿八日
陸軍省
文書

11367

長春發
本有馬
大正五年八月二十一日
前九日
主政
内務大臣
板山崎領事

第五二號

ニコリスクニ方面引揚邦人五百六十名八月十三日
同地去著當地一東ニ趣當地陸軍當局ヨリ通報
アリニコリスクニ領事ヨリハホク何事ノ通報ニ轉
セヌ右引揚邦人ノ情況一切不明ナリ處目下當地
方在留民一般不景氣ノ極ニシテ是業者ノ對シテ
ラテハ折初若シ引揚者ノ多數力當地方ニ在仕ニ
相当ノ職業ヲ得ントスニモノチラハ甚ク困難ナ
ル儀ト存セラルニ番破管内ニ於テハ料理ヲ曠業婦
賣粟ヲ買入等ノ救多ク思中不景氣ノ際持

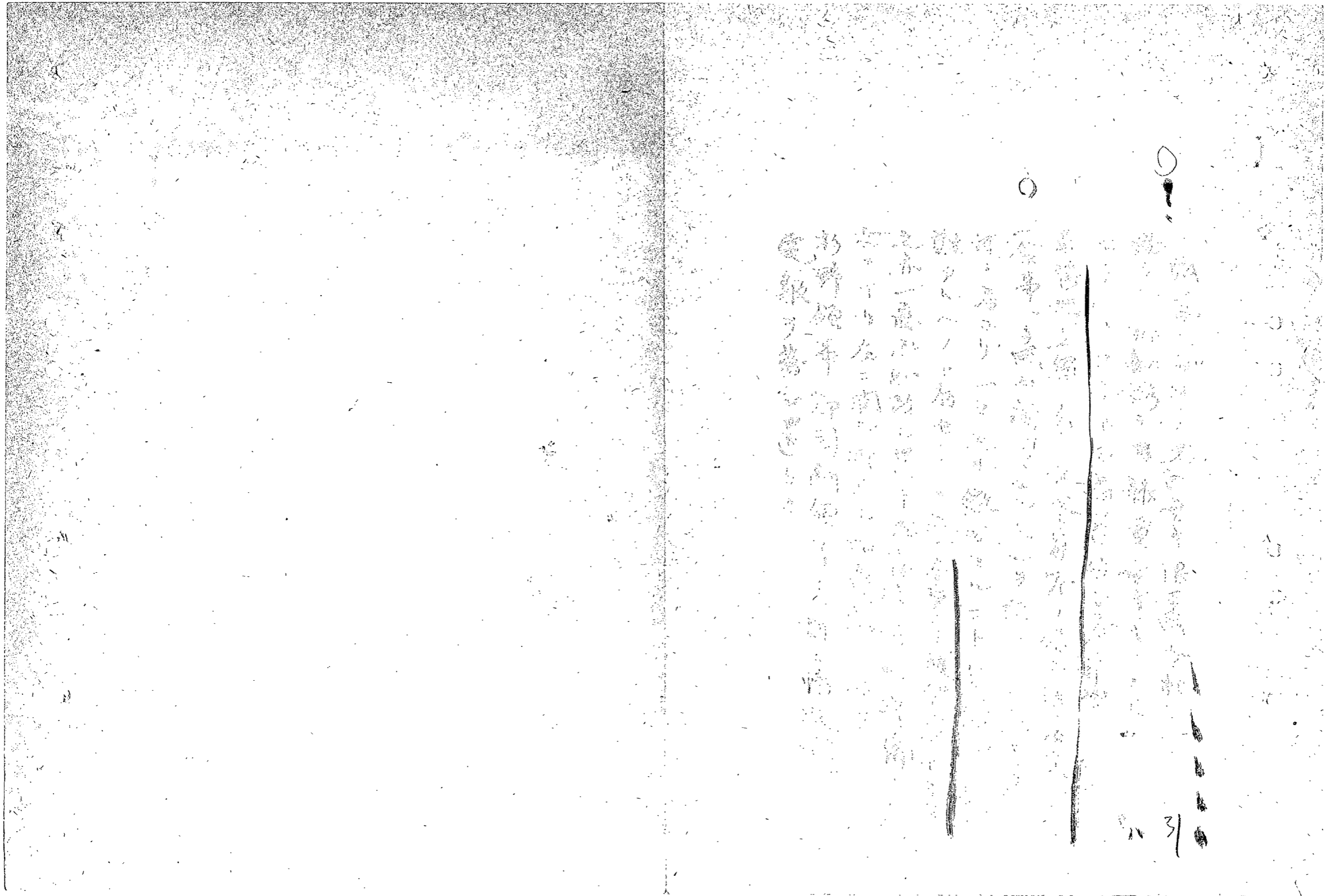
會引揚表

高邑

弊害大ナルヲ以テ本年一月以來是等折揚ノ營業ハ
許可セリ方計ヲ執リ又是等引揚者ノ對シ
テハ大ニ同情ヲ表シ當地各地方而トモ打合セテ上
クノ平配斡旋ヲ為ス一トモ一時ニハ高邑地方ノ
多數ヲ収容スルハ容易ノコトニ非ス時ニ病家衛
生風紀等々甚ク多ク遺ハルル次第ナリ
浦西松村統領事先電第一四七號ニ依リ
己ノ得カニモ、對シテ、當地ハ南滿高邑
地邊ニ、撤費及公費ヲモ、貸付セリ、地邊
起、處右、如何、標、標、程、友、ニ、批、何、以、取、報、相
成、成、第、ナ、リ、中、知、改、シ、右、當、方、ノ、予、情、コ、リ、ス、レ
ハ、當、他、方、ハ、引、揚、者、ニ、シ、テ、相、當、ノ、貸、付、セ、ル、者、ハ、相、當

會引揚表

高邑



5-1439

0245

大 次 官 臣
亞 細 亞
歐 米 亞
通 商 條 約
情 報 事 務
人 事 計 劃
會 計 書
文 書
平 和 條 約

電 信 案

電 信 課 長

(丙 號 用 紙)

發 電 大 正 十 年 八 月 三 十 日 午 後 二 時 三 十 分 送 電 番 號 六 二 七 〇 長 春 經 由

主 管 歐 米 局 長

主 任 (起 草 大 正 十 年 八 月 十 日)

校

件 名 海 州 引 揚 船 人 携 帶 粉 物 一 通
通 商 條 約 二 國 公 司 方 藏 有 一 文 五 振
通 商 條 約 一 件

受 信 人 名 朝 鮮

發 信 人 名 趙 秉 汝

第 三 八 號

海 州 引 揚 船 人 携 帶 粉 物 一 通 一 件

海 州 引 揚 船 人 携 帶 粉 物 一 通 一 件

電 信 案

外 務 省

海 州 引 揚 船 人 携 帶 粉 物 一 通 一 件

海 州 引 揚 船 人 携 帶 粉 物 一 通 一 件

海 州 引 揚 船 人 携 帶 粉 物 一 通 一 件

海 州 引 揚 船 人 携 帶 粉 物 一 通 一 件

海 州 引 揚 船 人 携 帶 粉 物 一 通 一 件

海 州 引 揚 船 人 携 帶 粉 物 一 通 一 件

海 州 引 揚 船 人 携 帶 粉 物 一 通 一 件

電信案

電信課長

(丙號用紙)

暗號 發電大正十一年八月二十一日午前一時四十分 送電番號六三三七 奉天經山 長春經由

主 管 歐米局長 收

任 主 (起草大正十一年八月十九日)

校

件名 引揚者一帯の人心の慰安ノ
ノ事關ニ付

級 込 名

受 信 在ノパルノイ

人 名 郵司副領事宛

發 信 人 名 内田右良

第 一 三 號

大 臣 官 次 亞 細 亞 米 歐 通 條 約 情 報 人 事

會 計 文 書 和 條 約 文 書 切 替 券 折 算 切 替 券

信 案

外 務 省

貴電第五三三号の復答ニ関シ

在裁下リテ規定ノ持金ナリハ入ルセリナクハ方針

志ニ引揚者ノ貸付ノ及リテ相当ノ資力ノ關係

邦人ノ確實ナル保障ノ爲メニ万不得已ニ場合

ノ事案支ナレ

提示金ノ規程

大臣官署 亞細亞 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和

電信課長

電信案

(丙 號 用 紙)

暗號 發電大正十一年八月二十一日午前〇時四十分 透電番號六二二二 奉天經由長春經由

主 管 歐米局長 収

主 任 第一課

左 坂

件名 引揚者海上輸送ノ件

級 込 名

受信 在浦潮 松村總領事

發信 内田大臣

第一六〇號

貴電第三三〇號ニ答シ

陸軍側ト打合ノ結果大坂商船台北丸ヲ二十五日迄ニ貴地ニ廻航セシメ本邦一ノ引揚者八百名ヲ敦賀迄輸送セシムルコトナレリ(内商行ハ敦賀ニ上陸回地ヨリ陸路輸送)尚榊

電信案 外務省

大汽船萬在丸ヲ宇品ヨリ貴地ニ急行セシメ朝鮮行邦人及解人千七百名ヲ清津及元山迄輸送セシム(尚本件ハ陸軍ヨリ貴地ニ派遣軍參謀長ハ電報消ニテ又海上輸送實施ノコトハ陸軍ニ依頼シアルニ付軍側ト協議中) 宜措置アリタシ

大 次 官 臣
 亞 細 亞
 歐 米 商
 通 商 條 約
 情 報 事 務
 人 事 計 劃
 會 計 書
 文 書
 平 和 條 約

電 信 案

電信課長



(丙 號 用 紙)

平 文 發 電 大 正 十 年 八 月 二 十 日 午 前 五 時 半 分 送 電 番 號 九 三 八 奉 天 經 由 長 春 經 由

主 管 歐 米 局 長
 主 任 (起草大正十年八月二十日)

件 名 哈 爾 濱 經 由 引 揚 者 數
 函 件

名 込 綴

受 信 人 名 在 長 春 山 崎 總 中 次
 發 信 人 名 內 田 右 衛 門

第 一 七 號

電 信 案

外 務 省

報 告 書	南 城 三 郎	北 市 三 郎	ハ ン パ ス タ エ ン
哈 爾 濱 行	ナ ン	二 四 九 (外 籍 人 三 三)	三 二 二 (外 籍 人 三 五)
長 春 山 崎 行	三 〇 五 (外 籍 人 三 〇 五)	五 〇	
右 記 各 項 之 概 況 了 矣			

大臣 次官 亞細亞 歐 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約

淨書主任渡

急

公 信 案

文書課長

文書課長 長檢印

大正二年八月廿五日接受

大正二年八月廿五日接受

起草大正十一年八月十九日

淨書

正(原稿)を以て淨書を以て

別紙

(甲) 號用紙

主 管

歐米局長

主 任

機 密

普通 第三五五號

大正二年八月廿一日附

附屬書

通

受 信 人 名

兒島陸軍次官

發 信 人 名

地原次官

沿海州方面引揚民海上輸送件

綴 込 名

沿海州撤兵ニ因聯シ兵員留民中引揚希望者ニ對シ便宜供與ノ件ニ因シテ、本年八月三日閣議決定ノ徑兵員此等引揚希望者ノ

公 信 案

外 務 省

海 上 輸 送

備 船 其 他 輸 送 實 施 措 置

ニ因シテ、貴省ニ於テ可シ御配慮相煩度

此御依頼申進者、貴省候御答

今日在浦潮松村總領事未電ニ依リ、スパス

コエ及ニコリスク、方面ヨリ本邦、(敦賀又、門司行)

引揚ケトス、邦人約八百名、朝鮮、(雄基、清津

城津、釜山、仁川行)引揚ケトス、邦人約二百名、

朝鮮各地、引揚ケトス、鮮人約千五百名ニシテ

右、本月二十五日迄ニ浦潮着ノ豫定ニ依リ、有未

將又浦潮在留民中前記地方引揚希望者、目下

(成號用紙)

三十餘名十九日九月下旬ヨリ十月初旬ニ至ク

多數ニ上レキ見込ナク趣ニ有ク右ニ付テハ

必高ニ船運船場等ノ

二様ニ改メ更ニ御座

訓比因領林之字其能修治云

外務省

5-1439

0252

附屬書類添付

藏第九一四一號

大正十一年八月十九日

管區署 第一課

綴込名

原直

大藏次官 西野

元印

次官

機密 第92號 1.8.21

外務次官 植原 正直 殿

西伯利ヨリノ邦人引揚者ノ家具商品等ニ對スル無稅通關方ニ關シ本月三日
附歐一機密第一七一號ヲ以テ御申越ノ趣了承右引揚者ノ旅具引越荷物等ニ
對シテハ關稅定率法第七條第十四號第十六號ニ基キ免稅ノ取扱ヲ爲シ得ル
義ニ有之候又商品ニ對シテハ同法第七條第十七號該當ノ物品ニ非サレハ特
ニ免稅ノ途ナキ義ト御承知相成度尤モ御來示ノ通り引揚者ノ境遇ニハ同情
スヘキモノ有之候條右通關方ニ就テハ可成寛大ナル處置ヲ講スルコトニ可
大藏省
致尙ホ右取扱ノ管掟ヲ圖ル上ニ於テ左記ノ通處理可然ト存候處右ニ對スル
御意見承知致度此段及回答旁申進候也

A large empty rectangular table with a diagonal line from the top-left to the bottom-right, divided into two triangular sections.

美

記

一領事館ハ居留民會ハ豫メ引揚者ノ到着港到着日時員數
其ノ家具及商品ノ數量及見積價格(見積價格ハ商品ニ限ル)
等ヲ到着地所轄税關ニ通知スルコト

二引揚者ノ家具及商品ニ對シテハ引揚ノ都度領事館又ハ居留民
會ニ於テ正確ナル目錄ヲ作成シ居留民會ニ於テ作成シタルモノハ
領事ノ証明アルヲ要ス(貨物到着ト同時ニ之ヲ當該税關ニ提出
スルコト)

三右ノ目錄ニ物品(ニ包裝毎ニ)トノ對照番號ヲ符シ尚物品名個數
數量貨物ノ生産地(貨物生産地及見積價格ハ商品ニ限ル)家具ト商
品トノ區別等ヲ記載スルコト

四當該税關ハ右目錄ニ依リ貨物ヲ對査シ出來得ル限リ簡易
ニ通關セヨト

大藏省

寫

發電大正十一年八月二十一日

引移
米第一課

(己號用紙)

校

在浦潮

内 田 大 臣

松 村 總 領 事 宛

在留民引揚費ニ關スル件

第一六一號

（附号）

貴電第二〇九號ニ關シ

一、在留民引揚費ハ豫備金支出ノ手續中ナルモ差當リ貸與資金トシテ「ニコリスク」及「スバスコエ」分ヲ含メ金拾萬圓機密費ヨリ支出電送ス

外 務 省

長春
松村
電報
係

(己號用紙)

ニ、貸與金ハ資力ナキ者ニ限り食料又ハ船車料トシテ必要ナル最少限度ノ金額ヲ交付セラルヘシ
三、貸與金ハ總テ各本人ニ對シ明カニ貸與トシテ申開カサルコト勿論ナルモ無資力者ニシテ後日償還不能ノ者ニ對スル貸與ハ事實上給與ト同一ニ歸スルノミナラス永ク會計整理上ノ煩累ヲ生スルニ付近キ將來ニ償還ノ見込ナキ者ニ付テハ會計上給與トシテ整理スル考ナリ就テハ貸與金ノ證書ハ貸與又ハ給與ノ何レニ依リ整理セラル、モ差支ナキ爲借用ト記セスシテ受領ト記セシメラレタシ右ニ依リ受領證ヲ徵スル外別ニ各本人ヨリ返納條件ヲ記シタル誓約書ヲ徵シ置カレタシ右返納誓約書中ニハ借用ノ旨ヲ明記セシメラレタシ

外 務 省

(己 號用紙)

四 貸與金ハ可成現金ヲ交付セス現品又ハ乗車乗船券等ヲ交付スルコト、セラレ度尙各場合ノ實況ニ應シ貴官ニ於テ右ノ主旨ニヨリ適宜措置セラレタシ

五 貸與ヲ受クル者ニ付テハ各本人ノ資力ノ有無程度及近親知友等ニヨル援助償還ノ見込等出來得ル限り精密ニ調査シ置カレタシ

六 「ニコリスク」及「スバスコエ」ニ於テ必要ナル貸與金ハ當分松村總領事へ直接請求アリタシ

右「ニコリスク」及「スバスコエ」へ轉電アリタシ

外 務 省

淡路

機密
受第 17 之 號
11. 8. 21

商通
監理
課

至私
なれ
た

~~秘~~

大正十年八月十九日午
前〇一五
海軍高着
末次海軍大佐
（在デカストリ）
軍令部長
（在デカストリ）
（在デカストリ）

一十七日尼港ニ於テ島田元太郎ト対談要
領左ノ通

島田ハ本月上旬ニ港卒黒龍江ヲ溯リ
十日頃哈府ニ達シ尼港將來ニ関シ當
局者ト協議ヲ遂ケ十六日尼港ニ歸着セリ
合府ニ於テハ十二ヶ條ノ提案ヲナシタルニ
中ニ日ニテ哈府官憲至由齊多政權
トノ間ニ協議成立セリ哈府官憲ハ
過激共産党ノ時代ヲ過キ今ヤ人材
登用經濟復興ノ時代ニ入リト稱シツ

- アリ當局者ハ三十才前後ノ青年多ク
事務敏活ヲ極メ今回ノ交渉モ前記
ノ短日數ニテ終了セリト云フ
- 島田ノ提案要旨次ノ如シ
- 日本人尼港ノ撤退後秩序維持
為極東共和国正規兵ヲ尼港ニ派遣
スルヲ而シテ其ノ軍紀風紀ハ嚴正ナル
ヲ要シ尚住人ノ信賴ヲ得ルヲ為特ニ服
裝ヲ整頓セシムルヲ
- ニ港現住民ノ生命財産ハ其日本軍
ニ使役セラレタル者ト雖モ安全ヲ保障スル
ニ當分ノ間ニ港ノ輸入税ハ輕減スルヲ
- ニ港復興委員ヲ認ムルヲ

(木)日本軍撤退ト極東共和国正規兵ノ
來着トノ中間期間ハ各團體ノ代表者
ヲ以テ組織スル自治派ニ於テ日本軍ヨ
リ引継キ尼港ノ秩序ヲ維持スルコト
(ハ)哈府官憲ノ代表者ハ島田ト共ニ下江ニ
尼港ニ來ルコト

(提出條件終リ)

哈府代表者ハ島田ノ瀝説ニ促サレ下僚
ヲ率ヒ島田ト同船下江中更ニ尼港ニ
於テ上陸拒絶ニ遭フヘキヲ虞レ中途ニテ
單獨上陸シ下僚ノミヲ試ニ尼港ニ來ラシ
メタリ而シテ十六日夜汽船内ニテ尼港復
興ニ関シ予備協議ヲ凝ラサレタルニ該在

員會ハ準備ヲ尚ハス各團體ノ代表者
ヲ選出スヘキコトニ纏レリト云フ

島田ニ齎シタル八月十一日附極東共和国
兼沿黑龍州代表者ノ尼港及黑龍江下
流住民ニ英ハタル布告ノ要領

(1)極東共和国政府ハ各自何等ノ恐慌
ヲ起スコトナク其治ニ安ンシ從來ノ正業
ニ從事スヘキヲ切望ス

(2)極東共和国ニ於テハ各自ノ個性及通商自由
ノ不可侵ヲ聲明ス

(3)政府ハ日本軍ノ尼港方面撤退ト同時ニ
極東共和国ノ正規兵ヲシテ之ニ代リ
守備ニ任セシム

(二) 政府ハ日本軍ノ撤退後生命財産ノ安全ヲ保障ス

(六) 尼港ニ駐屯スヘキ露西亜共和國正規兵ハ掠奪姦淫等ノ不法行爲ヲ断シテ行ハス犯ス者ハ又事裁判ニ依リ嚴刑ニ處セラルヘシ

(ハ) 政府ハ尼港一帯ハ産業復興ヲ計リ現在ノ悲境ヲ斟酌シ日用必需品ノ輸入税其他課税ノ輕減ヲ計ルヘシ
右ト同時ニ哈府商業會議所モ亦尼港方面住民ニ対シ通牒ヲ發セリ其要旨前記政府ノ布告ト畧々同様ナリ
原文及譯文ハ小樽ヨリ郵送ス 十八日

出國手數料貸
與ノコトナ
ラハ長春行ノ
約五百名ハ浦
潮通過ニ變更
スヘシ

尼市居留民引揚先

邦人	八五	鮮人	一一五
哈爾濱	五二四	長春	一九
朝鮮	一一二	教贊(内地各方面)	二六八
浦潮	三八	計	一〇三六

内司(長嶺能本) 一七九
佐贊 一七九
教贊(南西方面) 八九

六六八

七九

外務省

朝鮮河分、清津及東情、在、元山迄船舶、輸送スレト

「メバヌコエ」居留民ノ引揚先

邦人	二二	鮮人	三三
哈爾濱	五〇	長春及以南	一三
朝鮮	一一五	教贊(内地各方面)	一〇〇
浦潮	二九七	計	二九七

長嶺 一三八
能本 一三
麻里 一三
福井 一三
福岡 一三
大阪 一三
長興島 一三
佐贊 一三
高知 一三
石川 一三
岐阜 一三
北梅道 一三
滋加 一三
和歌山 一三
神奈川 一三
島根 一三
山口 一三
東京 一三

八三五
八三五

外務省

機密
受第 156 號
11. 8. 21

高警第二五九一號
警務部 第一課

大正十一年八月十七日

朝鮮總督府警務局長

外務大臣 殿
陸軍大臣 殿
拓殖局長 殿
警務總監 殿
警視總監 殿
警保局長 殿

在浦潮無資階級内地人ノ秘密計畫ニ
関スル件

撤兵後浦潮ニ於テ果シテ幾何程ノ内地人残留ス

ハキヤニ就テハ今遽ニ判断ヲ下ス能ハサルモ今
日迄ノ情况ニ依ル時ハ中階級ニ屬スル者ハ殆
ント全部引揚ケ一方三井三菱鈴木等ノ如キ大會
社ノ支店并ニ個人資産家即チ一流ノ巨商及一方
内地ニ歸還スルモ生活ノ途ヲ講スル能ハサル純
無産階級ニ屬スル者ノ極端ニ懸隔アルニ階級殘
留スルニ至ルハ推察セラル、點アリテ之等無
産階級ニ屬スル内地人ハ残留スルモ現在ノ狀況
ニテハ何等生活ノ途ヲ講スヘキ策ナキニ依リ内
地人ハバルチガニ隊ヲ組織シ以テ内地人有産者ヲ
リ金品強制寄附ヲ受ケ生活セント企畫中ナル風
説アリタル處去ル八月五日夜浦潮市内某所ニ前
記内地人約三十名集合ニ愈ハルチガニ隊ヲ組織

ニタリト右秘密集會ナリニテ豫知ヤサリニ其内
地人資産家ハ前記會場ニ入りタルヲ以テ一同ハ
秘密ノ漏洩ヲ恐レ令人ニ秘密ヲ洩スヘカラサル
昔嚴命ニ尚即席苦于ノ現金ヲ強要ニ同夜ノ酒肴
料ニ充當ニタル趣キ聞込アリニ旨本府浦潮詠遣
員ヨリ内報有之候ニ付何等御参考迄及通報候也

暗

岩倉藩長 文正 八月三日 午後四時
本署 合 廿日 前八三

長谷川 謙

第二四九號 内田外務大臣 牧山内総領事

八月一日附公第三五八號より、南請致置し、
当地及東支沿線、^共民保護取締、為警察官
増員駐派出所設置、同之、ハ脚註議ノ上実施
セラレ、トト存セラルルハ、駐屯軍ノ撤退ハ
愈期日切迫ニ察領方面ノ避難民ハ、来ル月十
二、二十二日ヨリ輸送開始セラル、殊ニ多数ノ難
民ハ東支沿線ニ入込ニ移住スル傾向アル

急
了
了

ノミナラス、彼等ハ何レモ無資力者ナルヲ以テ
来著後種々ノ事件ヲ醸ス、ト多カク、ト認
メラルルニ付、是レカ保護取締上至急警察官
ヲ派遣スル必要差迫リ、此際増派警察官ノ来著ス
ル迄一時、内務省ノ警察官脚派遣相成、孫
特ニ脚註議ノ上至急何カノ脚回電ヲ請フ

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約



Form with fields for '件名' (Subject) and '綴込名' (Attachment Name).

件名

綴込名

大正三年九月四日 記録係接受

浦潮發 本署署長 公事 八月三十日 浦潮發 本署署長 公事 八月三十日

日外務大臣 松村總領事

浦潮發 本署署長 公事 八月三十日 浦潮發 本署署長 公事 八月三十日

Form with fields for '門類' (Category), '項目' (Item), and '號' (Number).

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約



Form with fields for '件名' (Subject) and '綴込名' (Attachment Name).

件名

綴込名

11358 暗

浦潮發 本署署長 公事 八月三十日

松村總領事

貴電第一五九號 閣下 其筋ヨリ當地陸軍運輸部並引揚民用トシ

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

件名

續込名 友之奉命、俄三艦を破川
浦潮波、此に奉命、八月廿二日、法、一、二、九
本籍者、今、大正二年、廿二日、五〇〇。

内田外務大臣 松村総領事

第二三〇號

往電第二二一號当地ヨリ本邦、引揚々一キ
無資力者十八名(子供ナシ)ハ八月二十三日、
鳳山丸ニ便乗五日、敦賀上陸ノ豫定ノ處、同地上
陸後行先地迄ノ旅費ハ船長ニ託シ上陸ト同時
ニ當館交付ノ引揚人名簿目録ニ照シ夫々本人
ニ現金ヲ交付セシムル等ノ處、電第一六一號
ノ次第モ下ルニ付本省ニ於テ漢テ右本人ニ貸

此スヘキ旅費等ハ現金ニセシテ切符渡シニ
スルノ必要アリト認メラルルニ於テハ右等處
理ノ為豫メ本省ヨリ係官ヲ特派シ船長ヨリ
引揚氏用旅費受領ノ上乗車切符買入シ其他
引揚氏携帶物品通関等ノ斡旋ニ當ラシメラ
レヌウ尚ホ大北丸及清丸ノ便乗引揚氏ニ付
シテモ同様ノ取扱致度ニ付元山清津ニハ朝鮮
總督府ヨリ夫々係官派遣方豫メ總督府ト御打
合セ置アリヌ

引揚船当地出發ノ際ハ其ノ都度電報スレ

願項號

電信課長

大臣

次官

情

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

和平條約

安化

綴込名

件名

大正二年八月廿五日記帳係接要

主款

11410 (平) 京城 本有看 大正二年八月廿五日記帳係接要
 殖原外務次官 有吉政務總監
 別揚邦民荷物通関、件内地税関、
 振合：付御電報、趣諒承朝鮮税
 関：於了モ同一振合：據うシハベキニ依
 り領事館又ハ唐留民會より到着地
 税関へノ通知並家具及商品、日
 録：付ラハ總テ内地へ引揚、場合ト
 同様：處置セシトシレタシ

分類
5
3
2
電信課長

大臣
次官

亞細亞
歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約

11367

(暗)

内閣外務大臣

山崎領事

大正十五年八月廿六日記録係接受

件名

綴込名 長春 大正十五年八月二十三日 前九〇〇
本南馬

第五二號

ニコリス地方に引揚邦人五百六十名八月十二日
同地去者當地一東の趣當地陸軍當局より通報
アリニコリス方領事ヨリハ来夕何事ノ通報ニ
セ又右引揚邦人ノ情况一切不明ナル處目下當地
方在留民一般不景氣ノ極ニシテ且來者ノ數
少ク折初若シ引揚者ノ多數カ當地方ニ在付
相当ノ職業ヲ得トスルノナラハ甚ク困難ナ
ル儀ト存セラルニ當該管内ニ於ケル料理及被服
費等ハ皆不足ノ數多ク且過中不景氣ノ際特ニ

5-1439

0269

分類項
5
3
2
2

電信課長

大臣
次官

11367
(暗)

件名

継込名
長春警署
大正二年八月二十三日
前九〇〇
主改

山崎領事

大正二年八月廿六日記録係接受

特ニ際テハ
長春未竟五二子
哈爾濱未竟二六四子

遊引揚氏

知事及食費等件

同知事及食費等件
ハルビン未竟二六四子

人五百六十名八月十三日
當地陸軍當局ヨリ通報
ハルビン何事ノ通報ニ
一切不明ナル盛日下當地
ハルビン盛日下當地
多敷カ當地方ニ在リ
内ニ於テハ料理ヲ困難ナ
シ過中不景氣ノ際特ニ

警備大ナルヲ以テ本毎一月以来是等行規ノ管理ハ
許可セリシ方針ヲ執リ又是等引揚者ノ對シ
テハ大ニ同情ヲ表シ當地各地方ニテ打合セテ上層
ノ平配翰旋ヲ為ス一トモ一時ニ止ル名迄ナリ
多敷ヲ収容スルハ容易ノコトニ非ズ特ニ病室衛
生風紀等ノ是等々者選ハル次第ナリ
浦河松村総領事先々電第一四七號ニ依リハ万
己イテ得ルハモ、ニ對シテハ當地以南南邊者ナリ
地裏迄、旅費及食費ヲモ發給セラシ。抑見込ナリ
趣、處右ハ如何ナリ標榜種友ニ如何ヲ取扱相
成ハ吹券ナリテ承知改シ右當方、亦情ナリスル
ハ當地方ハ、引揚者ニシテ相當ノ安カク有リ相當

ノ職責ニ有テリ見込ナリ限有ル本邦奉給地ハ
概クハ保勸誘ニ具旅費等ナリ、此ノ上ヲ給與
セラシ。コトトモニ處置改シ右希望ス尚且正
尋常他立留者 收容者凡ノ借入賃及食費等
（食事ハ自白解トスルモ）ヲ容スヘク然モ多敷國
体ノ者ナリ一々之ヲ徴收スルコト實際上行ハシ
難クハヘクト存セラシ。處右費者、種給ノ途アリヤ
之亦一應承知改シ置キ右當方平配準備ノ都
合ニテアリ右ニ對シ折返し仰愈候 請フ
杉野領事即副領事ニ別ニ情改申合セリ
電報ヲ著シ置ケリ

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

印
類
號

件名

綴込名



主款

浦潮 大正十一年八月二十二日 午後四時五十分
在者著 左 右 〇一〇〇〇

内田外務大臣

松村総領事

第二三二號

右ニコリスノ第二九號

外務大臣、轉電アリ文シ

第二八號

大正十一年九月拾六日記

哈爾濱長春、江揚邦人中貧困資力ナキ者ニ
對シ食費平均一人當リ毫圓五拾錢(本ハ氏
會ニ於テ食費貸與リ申出サレ等ニ決セ凡モ
ノナルモ俄ニ翻リテ貸與リ求メ出テ且
時日

切迫シ居リ陸軍側ニ申出ツルモ九師團ト滿洲
守備隊トニ方シテ交渉複雑延リ氣遣ヒテ
現金貸與トセリ又國境通過料リ一人ニ付貳
圓九拾錢(旅費ノ一部)シラ貸與ノ已ラフ得
サレ次第ナリ)合計金四圓四拾錢ハ百四十九
名ニ對シテ六百五拾五圓六拾錢也貸與ニ知
自ヨリ借用証ヲ徴シ置テリ在御承認ヲ請フ

機密
受第 3815 號
11.8.22

高松 第貳課
大正十一年八月十八日
福井縣知事 白鳥川謙
綴込名 長谷川 氏

内務大臣 水野清太郎 敬
外務大臣 内田康哉 敬
陸軍大臣 山梨半造 敬
農務大臣 大坂高徳 敬
朝鮮總督 齋藤實 敬
朝鮮總督府 局長 敬

浦塩引揚民無料宿泊所開設函件
浦塩労働團 丸田五百子
慰問タイムス社 中村明星

右者 客月十日付高松乙第三九六號
及同月二十四日付高松乙第三九六號
以テ既報ノ虞トカ同人等ハ最初致賀
所長ヲ訪問シ援助方依頼シ之ニ所長
ハ該口頭ノ具件化スル候テ柳田後援
スヘキ旨 父方より 勉ニ復等ハ其後 荏苒
ヨリ送リ付ケリ方 中村ハ中社ニ 報告
コトアリトテ 七月二日 浦塩ニ 之代リ 同
七日 浦塩労働團 新守社長 大友祥一 主
張 來ニ 七月十五日 大友丸岡ノ 友名ハ
町長 御長等ノ 訪問ニ 大友祥一 主
浦塩労働團 新守社長 大友祥一 主
著作物 一食 約 伯利 重機 行記

5-1439

0273

越市に之か販賣之因り得平利益ヲ
 以て居留民救済ノ資ニ供じりキヒヨクヤ
 其ノ販賣用施方ヲ依頼しヨル所長
 郡長等ハ各自各ニ三都ヲ購入之般
 之対元用施ヲ拒絶しヨル人等ハ本月
 十月日約突出帆陸軍用船明石丸ヲ
 船一浦一倉ニ就キタリ想ニ彼等ハ
 之等居留民救済ノ資名ヲ指シ内中賣私
 腹ヲ肥ヤト云々ト被レ隠
 拒及申(五)黄紙

主
管
部
門
第
一
課
左

軍
部
第
七
五
三
號
綴
込
名
氏
石
山
次
郎

陸軍省
399

浦潮避難民輸送ノ件 回答

大正十一年八月十九日 陸軍次官 兒島 惣次

外務次官 埴原 正直 殿

首題ノ件ニ關シ八月十九日歐一第三五五號照會ノ趣異存無之取計置候
也

付了

陸
軍

5-1439

0275

定取サカ旦^必時船ニ依^テシテ事^ノ務^ニシ
前記給^ル事^ノ業^ノ務^ノ措^ニ置^ル事^ノ妥^ニ当^ル事^ノ分^ル
ニ有^ル事^ノ分^ル事^ノ分^ル事^ノ分^ル

(戊號用紙)

外務省

5-1439

0277

大 次 官 臣
亞 細 亞
歐 米
通 商 條 約
情 報
人 事
會 議
文 書
平 和 條 約

至急

要再田

電 信 案

電信課長

(内 號 用 紙)

平 文 發 電 大 正 十 年 八 月 廿 四 日 午 前 五 時 卅 五 分 送 電 番 號 六 三 七 一 奉 天 經 山 長 春 經 出

主 管 歐 米 官 長 任 主 第一課 左

件 名 浦 潮 一 朝 鮮 各 港 間 定 期 船 旅 客 定 員 臨 時 增 加 方 案 三 件 名 込 綴

受 信 人 名 朝 鮮 總 督 府 有 吉 政 務 總 監 宛 發 信 人 名 埴 原 次 官

第 三 批 號

今 後 浦 潮 居 留 民 中 多 數 ノ 引 揚 者 ヲ 生 ズ ト ア ヌ ヤ 計 ラ レ サ ル ニ 付 全 地

敦 賀 及 朝 鮮 各 港 間 ノ 定 期 船 旅 客 定

員 ヲ 臨 時 増 加 ス ル 様 在 同 地 松 村 總

電 信 案 外 務 省

領 事 ヲ リ 宣 講 ア リ タル ニ 付 貴 府 関 係

ノ 公 出 來 ル 限 リ 右 様 取 計 ノ 上

至 急 何 卒 ノ 回 電 ア リ タシ

一 船中
一 船外

南洋居留民引揚が為船舶旅客定員
増加の件、関係ノ向ハ夫々準備ナ
配港

南洋
南洋居留民引揚
南洋外務次官
南洋外務次官
南洋外務次官

7/15
南洋

大 臣 官 次 亞 細 亞 歐 洲 通 商 條 約 情 報 人 事 計 畫 文 書 平 和 條 約

要 再 回
至 急

公 信 案

文 書 課 長 花 園 大 正 二 年 八 月 廿 日 接 送

文 書 課 發 送 大 正 二 年 八 月 廿 日 發 送 濟 淨 書 (守) (原稿) (淨書)

大 正 二 年 八 月 廿 日 發 送 濟

(起 草 大 正 十 年 八 月 二 日)

主 管 歐 米 局 長

主 任 第一課

次 機 密 第 一 五 六 號

大 正 二 年 八 月 二 日 附

附 屬 書 通

受 信 本 局 內 務 課 通 信 課 及

人 名 朝 野 有 名 會 社 監 査 人

發 信 人 名 植 原 次 友

件 名 引 揚 局 務 報 告 書 一 行 先 地

綴 込 名

引 揚 局 務 報 告 書 一 行 先 地 報 告 書 一 行 先 地

引 揚 局 務 報 告 書 一 行 先 地 報 告 書 一 行 先 地

引 揚 局 務 報 告 書 一 行 先 地 報 告 書 一 行 先 地

公 信 案 外 務 省

引 揚 局 務 報 告 書 一 行 先 地 報 告 書 一 行 先 地

引 揚 局 務 報 告 書 一 行 先 地

別 紙 字 体 附 事



歐米身課

沿海州居留民引揚者數及其ノ行先

(八月十九日迄到着セル報告ニ依ル)

外務省

(已 號用紙)

5-1439

0281

○(手紙)
 本表ニハ管内奥
 地引揚者ノミヲ
 揚ケタリ
 浦潮市在留者ハ
 未タ去就ヲ決シ
 居ラス將來ト雖
 著シキ危険無キ
 限リ一時ニ多數
 ノ引揚者ヲ出ス
 コトナカルヘク
 定期船ニテ一回
 五六十名宛引揚
 クルコトトナル
 ヘシ

第一 在浦潮總領事館管内

長春以南	一三
朝鮮各地	二〇四
敦賀	二〇〇
長崎	二〇
佐賀	一九
熊本	一六
東京	八
大阪	三
大分	三
愛知	一

内訳(別明)

外務省

(已 號用紙)

福井	一
福岡	一
鹿兒島	一
愛媛	一
青森	一

外務省

(已 號用紙)

引揚ハ八月二十
一日ヨリ開始シ
八月二十四日ニ
終了スル筈

第三 在尼市出張所管内

邦人	鮮人
哈爾賓ハ	一四九
長春ハ	三〇五
浦潮ハ	四五
清津ハ	二二八
敦賀ハ	一四一
門司ハ	三一〇
計	一一七八
	一一四二

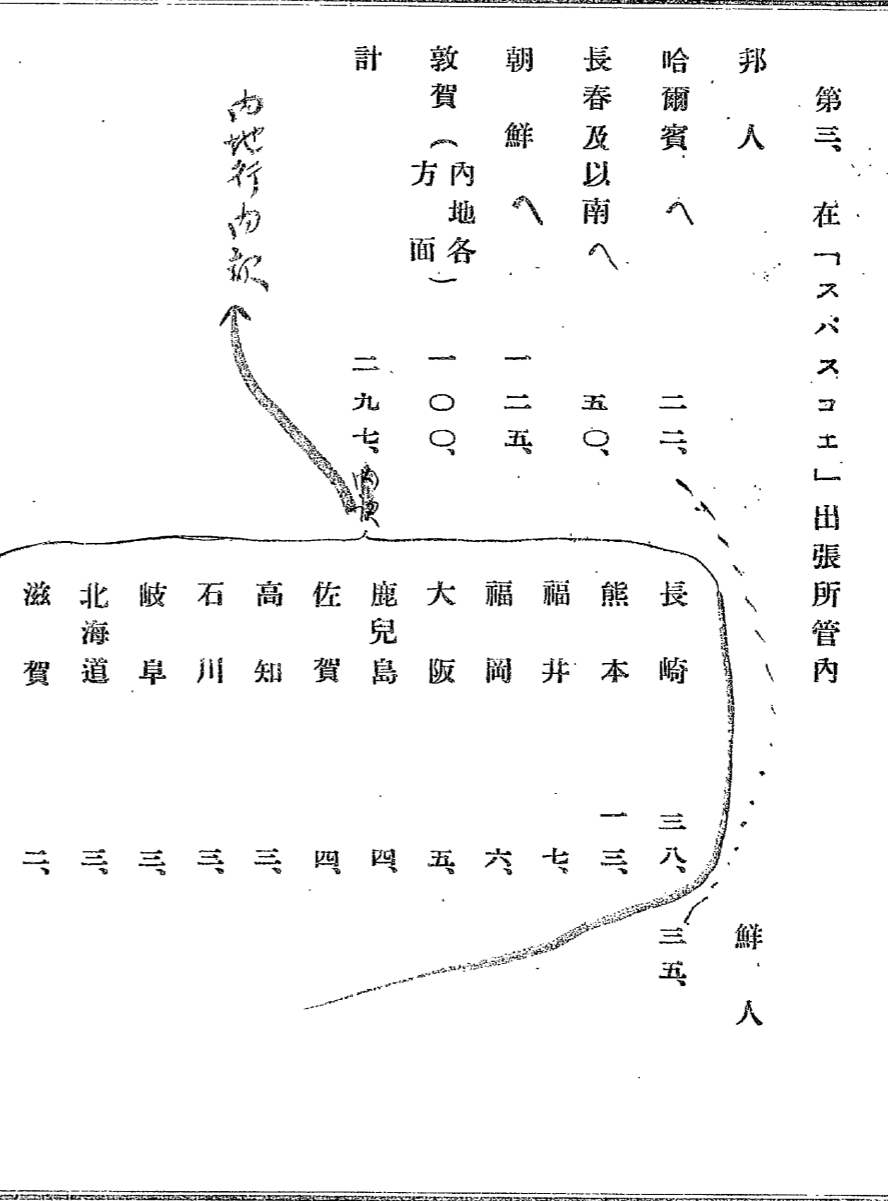
浦潮ハ
 鮮人
 七二四
 計
 一一四二

(口號用紙)

外務省

「スバスコエ」ニ
三千ノ朝鮮人アリ
内正當旅券所持者
三八居會保^{（保）}者
一四多^{（多）}

第三、在「スバスコエ」出張所管内



(已號用紙)

外務省

和歌山	神奈川	島根	山口	東京
二	二	二	二	一

(已號用紙)

外務省

電信課長

大臣

次官 桂

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

類項號

件名

綴込名

主眼

浦河若 大正九年九月四日 浦河若 八三六
暗) 本右義 自 浦河若 八三六
内田外務大臣 松村総領事

ハニニニ
在ノスバスカヤ 郡司 副領事ヨリ 示ニ五号
外務大臣ハ 転電アリ
示ニ田引揚 邦人 哈尔黄ハ 一四
長春ハ 一八
鮮人 哈尔黄ハ 四〇
長春ハ 一〇
自ニ十一日 出考セリ

電信課長

大臣

次官 桂

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

類項號

件名

綴込名

主眼

内田外務大臣 松村総領事
貴地行引揚 邦人 スイヤギノヨリ
八十名、ハ スバスコヤヨリ 三百五名
多日 祭
次官ハ 右引揚 民ト同行ス
大臣ハ 轉電ヲ請リ。

第二三六號
郡司ヨリ
貴地行引揚 邦人 スイヤギノヨリ
八十名、ハ スバスコヤヨリ 三百五名
多日 祭
次官ハ 右引揚 民ト同行ス
大臣ハ 轉電ヲ請リ。